



編集発行

大田原市総合政策部  
政策推進課 市民協働係

〒324-8641大田原市本町1丁目4番1号

☎ 0287-23-8715

FAX 0287-23-8748

mail seisakusuishin@city.  
ohtawara.tochigi.jp

# 多様な世代がつながる地域防災 「栄町自治会」防災訓練



栄町自治会は、9月28日に防災訓練を開催し、小学生から90代までの男女約50名が参加しました。

栄町自治会には、防災士の資格を持つ方が8名(男性6名、女性2名)おり、そのうち6名が自治会の役員を務めています。こうした方々を中心に、平成27年から自主防災会を立ち上げ、毎年地域の防災力向上を目指して防災訓練を実施しています。

写真は、「栄町自治会」防災訓練の様子。ベンチの座面を外すとかまどになります。

**2ページに詳しくご紹介しています。**

## 長谷川光紀栄町自治会長より、防災訓練を終えて一言

性別や年齢に関わらず、地域の多様なメンバーと一緒に参加でき良かった。こうした訓練を通して、地域住民のつながりが深まり、災害時の共助体制がさらに強化するものと確信します。今後も地域ぐるみで防災意識向上に努めてまいります。

# 『栄町自治会』防災訓練



日程：令和7年9月28日(日)  
会場：大田原市中央多目的公園、  
栄町自治公民館

第1部では、市危機管理課による防災出前講座として、栄町自治会の区域内にある大田原市中央多目的公園の防災設備を見学しました。

第2部は栄町自治会自主防災会副会長でNPO法人栃木県防災士会正会員、とちぎ地域防災アドバイザーの河上康之氏を講師に、段ボールで簡易トイレ作りを体験しました。

第1部の見学体験では、非常用マンホールトイレの設置や、かまどベンチの利用方法、太陽光発電照明灯、井戸のろ過装置など、多様な設備について学びました。また、公園の樹木は火災が広がるのを防ぐ効果があるシナノキが植えられていることも紹介され、身近な公園に多角的な備えがあることに、参加者は非常に驚いていました。

第2部の簡易トイレ作りでは、性別や年代に関わらず、助け合い、和気あいあいと作業に取り組んでいました(写真)。講師の河上氏からは「災害時にはトイレの確保が水や食料よりも緊急性が高い」との説明があり、参加者と講師が災害時のトイレ対応などについて意見交換を行いました。

## 災害時の女子の憂鬱

作・画/うり



▲公園に非常用マンホールトイレを設置する様子



## 参加者の感想

- ・ 普段見られない公園の防災設備を見学でき、非常に有意義だった。
- ・ 段ボールトイレづくりを地域のみなさんと楽しみながら学べてよかった。

防災に  
多様な  
視点を

# 大田原市男女共同参画講座 「みんなにやさしい防災講座」



講師:公益財団法人 とちぎ男女共同参画財団 防災士 芳村佳子氏

日程:令和7年7月30日(水)

会場:大田原市役所102会議室



◀大田原市防災ハザードマップについてはQRコードからご覧いただけます

## まず知ろう

7月30日、小学生から70代までの23名が参加し、NPO法人栃木県防災士会理事でもある芳村先生を講師に迎え、「みんなにやさしい防災講座」を開催しました。

東日本大震災以降も、市内では豪雨や台風に伴う土砂災害による避難勧告が度々発令されています。当日は、ハザードマップや日常生活における防災の心得など、実践的な内容について学びました。

## さまざまな視点を生かす

実際に避難する場面では、赤ちゃんや子ども、病気を抱えた人、外国人、高齢者、女性、他の地域からの避難者など、さまざまな人が集まります。そのため、避難所運営や防災用品の備蓄には、多様な視点を生かすことが求められます。たとえば、女性の安全を守るための男女別トイレや授乳・おむつ交換スペースの設置、生理用品・育児介護用品の備蓄、プライバシーを守るための間仕切りや更衣室の確保が重要です。防災リーダーに女性を積極的に登用することも重要です。また、炊き出しについては、女性のみでの役割とせず、交替したり、キッチンカーや専門の調理人に依頼するなど、多様な生活のニーズに対応した具体的な実践例を紹介されました。



## さあ、やってみよう



▲簡易トイレの組み立てを体験する参加者

実際に避難所づくりにもチャレンジし、段ボールベッドやパーテーションを兼ねたテント運営、簡易トイレ組み立てを体験しました。最新の備蓄品によって、あっという間に設営できることを実感できました。行政と住民が協力し合うことの大切さも感じた講座でした。

(記 江馬)



折りたたまれたテントを開くと…

縦長のテントが完成!

テントの上部には通気口があり、臭いがこもりにくい



## 参加者の感想

- ・避難所設営のシュミレーションが必要だと感じました。
- ・災害時の避難所では、男女関係なく、自主的に動き、協力、協調が必要だと感じました。



大田原市ホームページに講座の様子が詳しく掲載されています。▶



# 備えよう 防災グッズ

最低  
3日分

災害はいつ起こるかわかりません。いざというときに備え、日頃から自分自身や家族に合ったもの・サイズ・アレルギー対応など個別性を重視し、最低3日分準備しましょう。



ばらんす  
編集委員が選ぶ

## これだけはそろえたい ●基本の備蓄リスト

- 水(一人1日3リットル)
- 食料(アルファ化米、食べ慣れたレトルト食品、缶詰など)
- 電池・モバイルバッテリー
- ラジオ・スマートフォン
- ライト(懐中電灯など)
- ゴミ袋(簡易トイレや簡易雨具などにも使う)
- 携帯トイレ・凝固剤
- 防寒具(保温アルミシート)



## ●赤ちゃん・子どもがいたらプラスして

- 紙おむつ
- おしりふき
- おやつ
- ミルク・ほ乳瓶・ベビーフード
- おもちゃ(音が鳴らないものがベスト)
- 抱っこ紐
- 母子健康手帳(必要な部分はデジタル化)
- アレルギーがある子どもへの対応食品



## ●高齢者・介護者がいたらプラスして

- 常用している薬
- メガネ・補聴器
- 大人用おむつ
- 介護用品・看護用品
- ホイッスル(助けを呼ぶため)
- 歯ブラシ・入れ歯洗浄シート
- お薬手帳



女性被災者  
に聞いた

## ●「あってよかった！」防災グッズ8選



### ①水のいないシャンプー

お風呂に入れない時でも清潔に！

### ②マウスウォッシュ

水がなく、歯磨きできないことも。口腔ケアは被災地での病気予防にもつながります。

### ③マスク

ほこり対策や病気まん延の防止になるほか、お化粧できない時にも大活躍です。

### ④化粧品など

化粧品・リップクリーム・ハンドクリーム・シートタイプのメイク落としやヘアゴムなど。

### ⑤カイロ

女性は特に体を冷やさないことが体調管理につながります。離乳食を温めることにも使えます。

### ⑥ウェットティッシュ・おしりふき

何かと便利。とくにおしりふきは大判で肌ざわりがよく、大人も体をふくのに助かります。

### ⑦保温ポット

赤ちゃんがいるママにとっては必需品。お湯をもらうのに役立ちます。

### ⑧パンティライナー・生理用品

下着をこまめに着替えることができません。下着の清潔さを保つため多めに用意しておきましょう。



参考：福岡市市民局男女共同参画課 平成29年9月発行・令和5年3月改訂 「女子の視点を活かした防災ミニブック」



## 編集後記



55年ぶりに行われた大阪・関西万博に参加した。今回のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。1970年万博の「人類の進歩と調和」と比べて、さて私たちの暮らしはどう変わったのだろうか。確かに便利にはなったが、それが本当に幸せか。私たちは今、平和におだやかに暮らしているか。

修学旅行で太陽の塔を見上げたあの日の自分を思い出しながら、今はただ、子どもたちが自分らしく生を全うできる社会であってほしいと願う。  
(記 江馬)

## 編集委員 (五十音順)

天沼 明美 岩元 利孝 江馬 久美  
相馬 和恵 藤沼 久子

国際医療福祉大学  
伊藤 美由紀 森越 美香

問い合わせ

政策推進課市民協働係  
☎23-8715